



一橋大学

ジェンダー教育
プログラム

GenEP

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょう。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは？ (Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会科学研究センターを開設し、毎年およそ55科目、4200名の学生・院生のみなさんにジェンダー、セクシュアリティに関わるさまざまな授業を提供してきました。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
マーキュリータワー 6階 3617
<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指す
ゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹
科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携
科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ



緩やかなスロープ？連携？

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいけるカリキュラムがつけられています。



キャリアデザイン？

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずです。



労働・経営・ジェンダー？

2005年に行われた「一橋大学における男女共同参画に関する学生の意識・実態調査」で多くの学生から受講希望のあった「労働とジェンダー」、「経営とジェンダー」をテーマとした講義が新設されています。ジェンダーをより身近にとらえ、自らのキャリアデザインを具体的に描いてみてください。



新しい社会科学？

それぞれの専門的知見を深め研究を発展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。

性について、
これほど学問的に
深く考えたことはなかった。
新しい思考法を
身につけられた気がする。

大学の中にも
「男は」「女は」という
言説があふれている。
たくさんの学生、
特に男子学生に、
受けてほしいと
思った。

自分の中の偏見や先入観の存在に
気づくことができた。
ちまたにあふれる性に関する情報を
批判的に見るできるようになった。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。
学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室

第2講義棟1階西側「いまここ」HP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/>

■キャリア支援室

本館1階
http://www.hit-u.ac.jp/shushoku/career_support/top.html
大学院部門HP
<https://sites.google.com/a/r.hit-u.ac.jp/careersupport/>

■ハラスメント相談室 第1講義棟1階東側

<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/soudan.html>

セクシュアル・ハラスメントガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/guideline.htm>
相手の望まない性的な言動やジェンダー(性別)役割を押しつけることはセクシュアル・ハラスメントになります。一橋大学はその防止と排除のための措置、また問題が生じた場合の適切な措置のためのガイドラインを定めています。

ヒューマンセクソロジー

【共通／夏一火2】

村瀬幸浩

男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性（Sexuality）の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感染症などの性の病理を学び直すとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。

男女共同参画社会のキャリアデザイン

【共通／夏一木4】

西山昭彦／オムニバス(如水会講師)

グローバル人材、リーダーシップ、人材のダイバーシティ、 男女共同参画、ワークライフバランスなど、雇用の場における新たな社会的トレンドの背景と具体的な実践例を学ぶ場を提供します。企業、官界、その他フリーなどで活躍する方々によるオムニバス形式で、毎週異なるゲスト講師が仕事と人生のエッセンスを伝えます。

ジェンダーから世界を読む

【共通／冬一月4】

金井嘉彦／オムニバス講義

さまざまな時代、地域、言語文化を専門とする講師陣が、「ジェンダー」という視点を共有して、「世界」のありようを多角的に読み解くリレー講義です。いろいろな言語文化のなかのジェンダーを読み解いていきます。『ジェンダー表象の政治学』（彩流社 2011年）を教科書とします。

大 学 院

◆基幹科目◆

アジア思想史

【夏一火4】

坂元ひろ子

授業のテーマは「漫画における抗日戦争期のジェンダー表象」です。抗日戦争期を中心とした中国の漫画等の図像を分析することを通して、中国近現代思想文化史のジェンダー化を試みます。

文芸思想研究

【夏一火4】

井川ちとせ

「ヴィクトリア朝イングランドにおける女たちの絆」と題し、イヴ・セジウィック『男同士の絆』（1985）以降のホモソーシャルな欲望に関する一連の研究を、批判的に検討します。

ジェンダーと社会

【社・基礎／夏一水4】

井上輝子

ジェンダー概念が生まれた背景、ジェンダー概念がなぜ必要とされるのかを理解した上で、人々の誕生から死に至るそれぞれのライフステージ(幼児期、学校生活、職場、性と恋愛、結婚、子産み・子育て、更年期、高齢期)で直面するジェンダー問題を学習します。

ジェンダーとセクシュアリティの心理学

【社・発展／冬一水2】

柘植道子

ジェンダーとセクシュアリティにまつわる問題を心理学の視点からアプローチします。セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー・ステレオタイプ、ジェンダー役割負担、性役割態度、性差、ジェンダーとメンタルヘルス、心理学研究におけるジェンダーバイアスなどのトピックを扱います。

全学共通科目

頻度	曜日・時限	講義名	担当者
◎	夏一火2	英語圏文学Ⅱ（イギリス）	吉野 由利
◎	夏一火3	英語圏文学Ⅰ（イギリス）	中井亜佐子
○	夏一木2	台湾の歴史と文化	洪 郁 如
○	夏・冬一水2	まちづくり(2012夏・冬)	林 大樹
★	夏・冬一金4	共通ゼミナール	町田みどり
○	冬一火3	日本古典文学	柏崎 順子
◎	冬一水2	教養ゼミナール	町田みどり

学 部

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
○	経・発展	夏一水2	現代経済論Ⅰ	竹内 幹
○	経・発展	冬一月・水2	労働経済学	川口 大司
○	経・発展*	冬一月・水2	公共経済学	竹内 幹
○	法・基礎	冬一月・水2	憲法第一(人権)	只野 雅人
◎	社・基礎	夏一水2	国際社会学Ⅰ	伊藤 るり
○	社・基礎	夏一金1	教育社会学	中田 康彦
○	社・基礎	夏一金3	市民社会論	高田 一夫
○	社・基礎	冬一月3	スポーツ社会学の基礎	坂 なつこ
◎	社・基礎	冬一火2	社会研究入門ゼミ	貴堂 嘉之
○	社・基礎	冬一火3	政治学	中北 浩爾
○	社・基礎	冬一水2	社会学理論	多田 治
○	社・基礎	冬一金2	人間環境論	林 大樹
○	社・基礎	冬一金3	社会哲学	大河内泰樹
○	社・発展	夏一月4	社会思想史	森村 敏己
○	社・発展	夏一火1	スポーツと社会過程	坂 なつこ
○	社・発展	夏一火4	アジアの社会と文化	洪 郁 如
○	社・発展*	夏一木2	ヨーロッパ社会史特論	阪西 紀子
○	社・発展*	夏一金2	コミュニティ政策論	林 大樹
○	社・発展	冬一木2	教育研究法	木村 元
◎	社・発展*	冬一木3	アメリカ社会史特論	貴堂 嘉之
○	社・発展*	冬一金3	福祉社会論	高田 一夫
○	社・発展*	冬一金4	比較政治	田中 拓道

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

★：講義全体をジェンダーの視点から構成する

◎：ジェンダーを講義の一つの柱とする

○：ジェンダーについて1, 2回取り上げる

*は学部・大学院共修。

委細は各授業のオリエンテーションで確認してください。また履修登録の際には、学習計画ガイドブック(学部)／学生便覧講義要項(大学院)に従って下さい。